

## 令和５年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和５年 12 月 14 日（木）13:30～15:40
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	合川常美、安部修司、伊藤真紀子、大衡彩織、梶田佐知子、加村なつえ、菅しのぶ、清川義彦、志田芽衣子、鈴木美成、田中麻里、樋下照男、柳田陽一、山口真樹（以上 14 名）
4 欠 席 委 員	八重樫深雪（以上 1 名）
5 （県側出席者） 生涯学習文化財課	小澤則幸総括課長、菊池剛主幹兼生涯学習担当課長、猿ヶ澤茂樹主査、山崎美咲主事
6 文化振興事業団	藤澤修事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷収館長、多賀聡副館長、千田貴浩総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、岩渕毅弘主任専門学芸調査員、住吉オリエ主任専門学芸調査員、久保田幸恵主任主査、杉田友視主査

1 開 会	事務局より、委員 15 名のうち 14 名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第 9 条第 2 項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	（出席者名簿により自己紹介）
3 職 員 紹 介	（出席者名簿により出席職員を紹介）
4 館 長 挨 拶	<p>本日はお忙しい中、年末で非常に出席するのも大変だったと思いますが、参加していただきましてありがとうございます。</p> <p>今年度については企画展を 4 本開催したところで、いろいろな企画展があるが、前のフィンランド展は 2 万人を超え、現在開催している高畑勲展もこの間 2 万人のセレモニーを済ませた。多くの方々に楽しんでいただいている。</p> <p>コレクション展は、今年度は主に現代美術的な新しい表現の展覧会を中心に開催しており、こちらのほうも好評をいただいている。いずれにしても、多くの方に来ていただき楽しんでいただいていると感じている。</p> <p>今日は、皆さんの地域で活躍されている方、キュレーターの方、表現者の方、学校教育の関係の方々に来ていただいているので、その立場の中でご意見いただきたい。いろいろな切り口があると思うが、説明するので、それに向けてご意見いただきたい。</p> <p>特に表現者の方々は、こういう作品がもう少し美術館に入ったらとか、キュレーターの方には運営に関わってもご意見いただければと思っている。</p> <p>また、地域の方々には、ここは本宮地区だが、どういう美術館になってほしいというアイデアやご意見いただければと思っている。教育関係の方々には、今、学校の美術の授業は非常に現代美術的な表現が盛り込まれており、指導要領を踏まえて、教科書にも非常に新しい表現が載っているので、この辺についてのご意見、また、美術館と学校の連携についてアイデアをいただければと思っている。大宮中学校さんとは先日、ICT 関係の器具を使って遠隔操作で美術館と学校を結ぶ、実験的なことを始めているので、大いに期待するところ。その辺についてもご意見いただければと思う。</p> <p>短い時間にはなるが、今日はいろいろ話が盛り上がるように、皆さんのご協力をよろし</p>

	くお願いしたい。
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、樋下会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項 ア 【質疑応答】	「岩手県立美術館の概要について」(資料1) 事務局から資料1により説明を行った。(説明内容省略)
◆伊藤委員	開館して20年が経過されて、それぞれ施設の改修、設備の更新という時期になっていると思うが、予定などお聞かせ願いたい。
◆美術館	特に大規模な改修は予定されていないが、20年経過するといろいろな設備に支障が出てきている。所管課の生涯学習文化財課と連携を図りながら必要な予算の確保をしていただき、適切に対応している状況である。 いずれにしても、将来的には大規模な改修等が必要になってくると思われるが、そこは時期を見ながらお客様の安全や作品の保護など、適切に管理運営できるよう対応していきたいと思っている。
説明事項 イ 【質疑応答】	「令和4年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について」(資料2) 事務局から資料2により説明を行った。(説明内容省略)
◆大衡委員	展覧会の名称の変更について、内容としては同じなのかもしれないが、来館者の立場になって考えると「不安の時代を生きる」という展覧会を見るよりも、「そのとき、岩手では」のほうがずっとわくわくした気分になる。「不安の時代を生きる」に足を運ぶ気が起きなかった方でも、展覧会の名称を変えることによって集客に結びつくのではないかと思う。これは非常によい名称変更だと思った。
◆樋下議長	企画展は月に1回ずつ見ている。館長の挨拶の中でフィンランド展と高畑展が2万人を超えたとあったが、フィンランド展の集客は何が要因だと思うか。
◆美術館	フィンランド展が大変人気だったのは、展覧会にたくさんヴィンテージの家具等含めて出品いただいたネットショップが全国でも非常に名が知れファンがたくさんいるショップで、その社長が来館し自らご案内していただいた。もともとフィンランドのデザインのファン層が多い。40代から60代ぐらいの女性を中心に、リピーターの方が結構いたこと、グランド・ギャラリーに大規模にショップが出て、ヴィンテージのグッズなどもあり、非常に見ていて楽しかった。また、グランド・ギャラリーの実際に椅子に座れるコーナーでは子供だけでなく、大人の方も非常に楽しんでた。また、展示室の中が全て写真撮影可能でSNSで拡散された。最近の傾向だが、そういう展覧会は若い方を中心に反響があるように実感した。
◆菅委員	フィンランド展を拝見した。私はフィンランドの生活など見て楽しんだが、終わった後のグッズの販売がすごく混んでいて、やはり女子としては企画展を見たら何か記念のものを買いたい気持ちになる。高畑展もグッズがあるようだが、グッズ販売というのはどうしても心引かれるので、企画展を開催する時はグッズ販売も一つ考えてほしい。絶対グッズは買いたいという気持ちになるので、ぜひお願いしたい。
◆山口委員	私もフィンランド展を見たが、平面的な絵画とは違い、立体的で、ぐるっと回っている四方から見ることができる。SNSを見ていても、私が見ていないところでいろいろな気づきがあって、また行きたいなという気持ちをそそられる、とてもすてきな企画展だ

	った。やはりSNSは影響力が大きいのだと思う。また行かなきゃ、ここをもう一回見たいと思わせる気持ち、わくわくがある気持ちというのは大切なのだと思った。
説明事項 ウ 【質疑応答】	「令和5年度事業実施状況について」（資料3） 事務局から資料3により説明を行った。（説明内容省略）
◆柳田委員	鑑賞や美術館へ行くきっかけにICTは最適だと思っており、私もすぐ評価はしているが、やはりそれは美術館に代わるものではない。私は目の見えない学校の教員をやっているが、ICTは音声しか入ってこない。そこで実際に来てもらって触って、匂いもあって、圧力もあってというものが大事だと思っている。ぜひICTだけではなくて、そういう実物というのも残してほしい。
◆美術館	特別支援学校などの方々に来ていただき、ワークショップなども今は力を入れてやっている。直接実物に触れてもらう機会をこれまで特別支援学級や学校になかなか届かなかったところも声をかけ、今、これも試行して強めていこうと考えている。 今、発言があったが、確かに直接現物を見るということは非常に大切だと思われる。出前講座で当館職員が出向き、実際にいろいろ授業すると、初めて美術館に収蔵されている作品を見た、行ったことがないので、見てみたいというご意見も多数寄せられている。これまで来たことがなかった、そういう施設があるのも知らなかったという方も、特に遠方に住んでいる方々に多いので、そういう方々に美術館をしっかりと理解してもらうために、まずはそういうもので触れてもらい、お父さん、お母さんに盛岡に連れてきてもらい、盛岡に行くときには美術館に行ってみたいといった感じで広まっていけば良いと考えている。
◆美術館	出前授業について誤解されたかもしれないが、今やっている職員が出向く出前授業も継続しつつ、それに加えてICTのリモートの出前授業も行うということである。
◆菅委員	今の出前授業だが、具体的にどういう授業なのか、例えばコレクションを見せて説明するのか、あるいは何か作業をするものなのか、基本的なことが分からないので、教えてほしい。
◆美術館	基本的には鑑賞の授業になっており、アートカードというはがき大のカードで、コレクション展で展示している作品から40点を選んでカードにして、それを使った授業を行っている。そのカードを並べて1点選んだものの共通点をみんなで見つけて並べ直したり、特徴を1点生徒が選び、他の生徒がその選ばれた1点を質問しながら予想していくなど、ちょっとゲームに近いような活動だが、それらを通して作品をよく見るということを目指して、その中から魅力を見つけないことを目標としてやっている授業となっている。
◆田中委員	同じくアウトリーチ事業について、美術館でワークショップを盛んにやっていると思うが、そういうことを学校に出向いてやるということはないのか。
◆美術館	今のところは鑑賞に特化してやっている。ワークショップは当館で行うスタジオプログラムや展示に関連した事業で、幅広い年代の方を対象にしたものを行っている。今のところ社会福祉施設を対象としてはワークショップの指導も行っているが、学校に向けては鑑賞を中心に行っており、教員向けのアンケート結果は、鑑賞を美術館と連携して行いたいというような声も多かったので、今はこういった事業になっている。
◆鈴木委員	先日ICT授業をやっていただき、1年生を対象にして、各教室で5学級5コマを使った。ICT授業もここ数年始まったばかりなので、まず子供たちがそういったことそのものにも興味を持っていた。先人学習なんかでも来たりしている子供たちはいるが、改めてそれを通して、もう一回行ってみたいとか、そういう感想も私のところには聞こえてきて

	<p>いるので、おおむね好評だったのではないかと捉えている。</p> <p>我々もＩＣＴ活用が始まったばかりで、我々の研修、使い方の技術の向上ということも併せて進んでいけば、なおうまく回っていくのではと考えたところである。</p>
◆美術館	<p>当館ではノウハウのある職員がいるので、そういうところを学校とうまく連携していかなければならない。Wi-Fi の環境がない学校ではやりたいと思ってもできないし、実は美術館もまだWi-Fi の整備がなかなか進んでいない。施設環境だけ進んでも、多額の予算がかかりなかなか進んでいないのが現状だが、こういうことが現実に行き通れば、整備のほうも進んでいくのではと思っており期待している。ソフト面とハード面の両方の要素があるが、まずはソフト面を試行している。</p>
◆大衡委員	<p>１点目が「資料収集、保管、展示調査研究等の事業」とあるが、収集の内容、それから修復の内容が記載されていないので、次回は知らせていただきたい。そして、菅木志雄作品は購入に至ったのか分からないので知らせていただきたい。</p> <p>２点目が４ページのアウトリーチ事業だが、社会福祉施設にも出前授業でしょうか、職員の方が行っているとのことだが、社会福祉施設といってもいろいろなところがある。どういう方を対象に、何を目的に、何をしているのかを教えてほしい。</p>
◆美術館	<p>１点目について、資料収集、保管、展示ということで、資料になるのは展示事業のところ为主立ったところだが、作品の収集は年に１回進めているが、去年は菅作品の収集に関してはこの場でご意見を伺った。去年は時期尚早ではないかというご意見もあり、皆様からいただいたご提言を基に、もう少し現代美術を県民の皆さんに知っていただく、関心を持っていただく努力をしていこうということだったので、今年度は展示あるいはイベント、館長講座などでも普及に努めているところ。</p> <p>今年度も引き続き協議をしてきたが、いろいろ条件、県庁内でも調整が整わないなど、今ペンディングになっている。今後収集の工程については、この後の方向性についてお話しするので、そこで説明する。</p> <p>作品の保存に関することについては計画的に進めている。昨年度も申し上げたかもしれないが、修復の必要なもの、あるいは次世代に引き継いでいくために必要な措置、修復に関しては予算の範囲内だが、計画的に行っている。</p>
◆大衡委員	<p>例えば寄贈されたものとか、そういったものもあると思うが、公開して構わないのであれば、公開することによって資料の収集状況も分かると思う。どういうものを修復したとかというの、もし出せるのであれば、来年以降公開しても良いのではないかと。</p>
◆美術館	<p>その実績に関しては年報でまとめており毎年データをホームページに上げている。</p>
◆美術館	<p>アウトリーチ事業について、美術関連研修の講師だが、先ほど社会福祉と言いつつ間違っただけかもしれないが、社会教育施設に行っており、青少年の家などに呼ばれることが多い。児童館とかの公民館の職員も対象にすることが多く、そういったところの利用者の子供に向けたワークショップを知りたいというニーズがある。当館でやっているアートデオヤコでやっているようなワークショップを少し修正して持っていくことが多く、年に３回ほど行っている。</p>
◆大衡委員	<p>そうすると、それは美術館事業と直結するものというよりは、そのような施設の方に美術館の職員の人がアイデアを求められて提供しているということか。</p>
◆美術館	<p>そのとおりです。</p>

◆加村委員	<p>先ほどの菅さんの作品の購入だが、コレクション展を見ていて、現代美術や、菅沼さんの作品など、それを小さい子供から楽しめるように取り組んでいることがすごく分かった。この会場に来る前に階段を上って上のところの菅さんの作品を何回も見ているが、改めて見ていて、大きなインスタレーションの作品の中に入って、作品の間をぐるぐる歩きながら見上げたり、そういう作品はいいなと思った。ぜひともコレクションの柱として菅さんの作品を収集するというのは実現してほしいと思う。2回目の館長講座のアンケートに書いたと記憶しているが、菅木志雄作品が一番充実しているのは、岩手県立美術館であってほしいという思いが強い。ただ、見方が難しいというのは全くと言って、割と菅さんと近い美術の先生からいろいろお話を個人的に聞くが、先生も「難しいよな」と言うし、1回、2回聞いただけで、「ああ、そうなんだ」と理解が深まるようなものではない。ちっちゃい子供から大人まで、いろんなレベルのいろんな紹介していく企画を1回、2回ではなくて、何年、長いスパンでやっていく必要があるのではないかと思った。</p>
◆柳田委員	<p>今のことに関連して私も賛成。鑑賞というのは予習して調べて見るのも一つの手だが、鑑賞というのは一番の最大の目的は発見だと思う。アマゾンで本を買うのと本屋で本を買うのでは、本屋へ行ったときに、あれ、こんな本もあるのかという自分の目的ではないものがあつたときの驚き発見というのは、多分子供たちにはすごい印象を植え付けると思う。普及してから購入というのもあると思うが、購入してから普及という考え方のほうが私は学校教育としては賛成である。</p>
◆菅委員	<p>片岡球子さんの「面構」、これもすばらしく、感激して拝見した。作品は人物の特徴を捉えすごく迫力があつたが、さらに一番最後に片岡球子さんが九十何歳のときでしたか描かれた絵は、すごく感動した。</p> <p>私がこの片岡球子さんを見ようと思ったきっかけは、姉から見てもすごくよかったということを知った。今、ラジオでも見に行つた人の感想を述べてPRをしているが、すごくいいと思う。見た方々の感想を載せたPR、そういうものもどんどん進めていったら、さらに来られる方も多くなると思う。非常にありがたい企画だった。</p>
説明事項 エ 【質疑応答】	<p>「観覧者数の推移について」（資料4）</p> <p>事務局から資料4により説明を行った。（説明内容省略）</p>
◆伊藤委員	<p>表の見方を教えてほしい。総利用人員の次に（うち常設展）、（うち企画展）とあるが、「うち常設展」というのは企画展をやっていない時期に入った人ということか。</p>
◆美術館	<p>企画展ではなく、常設展だけを観覧した人数。企画展をやっている、企画展を見ず常設展だけを観覧する人もいる。</p>
説明事項 オ・カ 【質疑応答】	<p>「令和6年度事業実施計画について」（資料5）及び「令和6年度企画展概要（案）について」（資料6）</p> <p>事務局から資料5と6により説明を行った。（説明内容省略）</p>
◆志田委員	<p>来年度の企画展のサンリオ展だが、こちらは弊社もご協力させていただくことになっている。よろしくお願ひしたい。展示品について、今分かる範囲で教えてほしい。</p>
◆美術館	<p>サンリオ展の出品作品は、大小様々なものがあるが、キティちゃんのすごく大きいオブジェ、サンリオさんからお借りするものがほとんどだが、サンリオにオマージュした現代美術作家の作品も並ぶ。二、三年前来ていただいた深堀隆介さんも、金魚の小さい作品だが、金魚の中にキティちゃんのようなものが見えるオマージュ作品がある。6作家の現代</p>

	<p>美術作家の作品と、グランド・ギャラリーに大きなオブジェが立つ。増田セバスチャンという方で、ぬいぐるみなどで構成された非常に大きなオブジェがあるので、デパートの催事用にはならず、美術館らしい雰囲気にはなると思う。その他に、サンリオさんの商品の開発段階で出てきたものや、実際に売られたもの、恐らくレアなものがたくさん並ぶ。いちご新聞という情報紙があるが、そういったもののコピーや、漫画家たちが手がけた様子が分かる実物、最初の頃のレアなものが並ぶ。商品も並び、移り変わり、たくさんのキャラクターが展開してきたこと、例えばお菓子や、いろいろなところに波及していったという社会の一断面、「カワイイ」というキーワードで日本の 80 年代、90 年代にどういうことが起きてきたかが少し分かる、そういう内容になっている。その他、実際にお子様たちが楽しめるインタラクティブなコーナー、映像に触るとパッと絵が変わるなどお楽しみコーナーもある。</p>
◆大衡委員	<p>企画展について、すごく工夫して一般の方が美術館に初めて来る人も楽しめるようなもの、そしてそれに岩手とか東北の情報を絡めているものがあるというのはすごく感じた。ただ、巡回展になっていて、美術館ではなくてもできるパッケージになっている展覧会もやらざるを得ないのかもしれないというのが透けて見えるような感じだが、先ほど収支を考えなくてはいけないという話があった。美術館の皆さんはもちろんご存じだと思うが、一応協議会の皆様もいるのでお話しすると、岩手県立美術館は美術館という名前だが、博物館という中に入る。その博物館の設置根拠として博物館法というのがあって、その第 26 条には「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。ただし、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる」となっている。収支を考えなくてはいけない当世の事情もよく分かるが、岩手県は最低賃金が全国最下位というような県でもあることから、収支をあまり考えず事業が展開できるようになるといいのだろうという、それを忘れないで事業を組んでほしい気持ちもある。</p> <p>あとは、県立美術館の学芸員の皆さんは非常に優秀な方がそろっているので、巡回をするためのイベントをこなすための要員になって、調査や研究をする時間が取られる、削られるようなことが今あるのかないのか、私は全く分からないが、そういうことがないことを願っている。「そのとき、岩手では」は、こういう皆さんの力が結集をするような展覧会だろうが、そういった展覧会も継続して次年度以降も展開していくよう期待している。そういうバランスを取りながら展覧会活動をしていただければと思う。</p>
◆伊藤委員	<p>同じく企画展に関してだが、今説明聞くと岩手ゆかりの方がこの中にも何人もいるというのが分かるが、ぱっとタイトルだけ見ると、何か岩手関連のものを来年やらないのかなと思った。やはり岩手県立美術館なので、岩手関連の作家の展覧会をやるというのが、年間一、二本程度で行うというのが館の方針にもあったと思う。そういった岩手との関連、この方とはこういった岩手との関連があることなどを紹介しつつ、展覧会の構成にこれかもしできるのであれば、そういったところをプッシュしていただけるといいのかなと思った。</p>
◆美術館	<p>前段のずばり自主企画のようなものであれば岩手ゆかりの作家とかということが分かりやすいが、そうでないものについても岩手との関連性を企画展に盛り込むような形で、今回の高畑展でも宮沢賢治との関連というような岩手独自のものを設けており、絶えず岩手と関連づけてご紹介できるように考えている。</p> <p>それから、先ほど収支というお話がありまして、これは収支ということからいくと、何</p>

	<p>か博物館としてということもあるかと思いますが、これは裏返すとやっぱり多くの方に見てもらおうということが唯一できることかなと思いますので、多くの方に足を運んでもらえるようなことで、結果的に収支といいますか、収入のほうも賄えるようにというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
◆山口委員	<p>次年度の会期期間は決まっていると思うが、3番のサンリオは、親子で小さい子供とかと一緒に来ると思う。そのような企画展をぜひ夏休みの時期に合わせてほしい。8月10日だとお盆で、それが終わるともう学校が始まる時期になってしまう。学校の行事などに合わせると親子で一緒に来ることができる。</p> <p>もう一点、岩手県のアンケートがあり、そこで地域のことに関心を持っている生徒が大変多いようなアンケート結果があった。ぜひ岩手の伝統芸能、美しい衣装やお面など、そういったものも企画展に入れてほしい。どこも小中学校は合併していて地域の伝統を引き継がない状況になってきているが、子供たちもおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に見に行くことができると思う。ぜひコンサートのところに伝統芸能を1つ入れていただければ、関連づけて見ていけるのではと思っている。</p>
◆田中委員	<p>個人的には来年度は堀内誠一さんと柚木沙弥郎さんが楽しみ。この会議に出席するに当たって、少し周りの人にも聞いてみたが、昔はモネとかピカソとか、いわゆるビッグネームのものも来ていたが、最近はないという話もあった。東京などで今すぐく当たり前のようにやっているが、なかなか行けなかったりするので、そういうのはたまにはあってもいいかなという話もあった。今後、もしできるのであれば開催してほしい。</p>
(3) その他	<p>「その他」について</p> <p>岩手県立美術館の美術品等の収集に係る方針等について</p> <p>事務局から資料・パワーポイントにより説明を行った。(説明内容省略)</p>
◆大衡委員	<p>収集についての説明ということだったが、現代美術と言われるものの実績紹介が非常に長かったということは、裏を返せば、それが非常に困難な状況がちらついているということなのか。</p>
◆美術館	<p>そのとおりです。</p>
◆伊藤委員	<p>意見ではないが、今改めて20年いろんなことをやっていると思ったので、次回の委員会のときから結構だが、これまでやった展覧会一覧みたいな資料が1つあると参考になると思う。</p>
◆清川委員	<p>事業内容から離れてしまうが、レストランの再開についてお話をしたい。</p>
◆生涯学習文化財課 小澤総括課長	<p>レストランについては、機器の不具合等、様々な要因で業者も撤退をして、今空きスペースとなっている。再開のためには、機器等の更新やそれに伴う工事が必要。また、従前やっていたようなレストランでの再開か、軽く飲食しながら休憩するようなスペースにするかなども検討しながら、予算も含め庁内でも検討を始めている。来年度中には見通しを立てていけるよう今進めているところである。</p>
◆清川委員	<p>常設展、展示を主に見るのは当然だが、その後休んで、ちょっと話をしたり、あるいは生徒たちがグループで利用というのはトータルで会館の利用で非常に有効的だという声を聞いたので、再開を待ち望んでいる学校の教員、生徒が多いということをご承知いただきたい。少し大変でいろいろ問題あるかと思うが、ぜひご検討いただきたい。</p>
◆樋下議長	<p>最後になるが、合川委員さんと安部委員さんに一言ずつお願いしたい。</p>

◆合川委員	<p>フィンランドのイベントの際にホテルでお料理等も提供した。和食、洋食、中華、あとベーカリー部門とあるが、洋食とベーカリー部門の社員が東京のフィンランドの料理を扱っているレストランに出張し、料理を勉強して戻ってきて、クローバーというニューウィングの1階のラウンジでシナモンロールとブルベリーパイを提供したが、すごく好評だった。今からこのシナモンロールを食べて美術館さんに見に行きますというお客様もいらっしやった。2階のジョバンニというレストランがバイキング形式であるが、そこでも小エビのヨーグルトソースサラダ仕立て、フィンランド風ミートボール、ジャガイモとアンチョビのポテトグラタンなどの提供をして、すごく好評だった。</p>
◆安部委員	<p>本日は初めてこちらの会に参加した。我々40歳までの世代で構成されている団体で、子育て世帯であったり、それぞれの仕事に日々追われている中で、なかなか触れる機会がないような話をたくさん聞くことができ大変貴重な時間、体験だった。企画展の予定とかも聞き、とても興味深い、行ってみたいと思えるようなお話だった。なかなかふだんそういう情報に接する機会が私自身も少なかったというのを今日すごく感じたので、20代から40代ぐらいの層の人たちが情報をキャッチできるような状況になってくると、また足を運ぶ方も増えてるのではと思いながら話を伺った。</p>
◆樋下議長	<p>児童センターというこの町内にある施設にいるのが、本宮・向中野町内会の事務局もしている。ここの美術館についての話題もたまにある。美術館というよりも、中央公園の整備状況についての話題があがる。実はこの中央公園が盛岡市の施設で、そこに県立美術館がある。盛岡市の施設の先人記念館がある。ここの整備計画をやってほしいと町内会のほうから市のほうに要望も出している。ここの整備状況も道路ができ、農地法にかかっている調整区域が外れて道路ができ、子ども科学館の隣の家が立ち退いて整備される。間もなく生まれ変わるのかなと思っているが、若干遅くなるというようなことで、町内会のほうではいろんな要望を出している。そういうことで、この辺も大分変わるのかと思っている。盛岡市のやり取りで町内会のほうはそのような動きもある。</p>
(4) 閉会 ◆ 樋下議長	<p>以上をもって本日の協議を終了する。 (終了)</p>